

2024年滋賀国体・全国障害者 スポーツ大会に向けたスポーツ環境の整備

3 すべての人に
健康と福祉を



11 住み続けられる
まちづくりを



【提案・要望先】総務省、財務省、文部科学省

1. 提案・要望内容

(1) 地方が行うスポーツ施策推進や、スポーツ施設の整備・改修 等に対する支援の充実

- 国体・全国障害者スポーツ大会運営費に対する支援の充実と財源の確保
- 国体・全国障害者スポーツ大会の開催を控えた都道府県および市町が行う公立スポーツ施設の整備に対する支援制度の充実と財源の確保、事業費に対する地方債の充当率の嵩上げ、元利償還金に対する地方交付税上の措置の充実
- 国体への民間資金の導入を促す取組の充実

2. 提案・要望の理由

- 各地方におけるスポーツ推進のためのスポーツ施設の整備やスポーツを支える人材の養成などの基盤整備は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催の効果が地方に波及し、根付くためにも、国全体で取り組むべき喫緊の課題
- 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の施設整備を含む開催に要する経費の大部分を開催地の都道府県と各競技会場地となる市町が負担
- 本県における2024年の国体・全国障害者スポーツ大会開催を、将来にわたって県民のスポーツ推進や健康増進につなげるためにも、誰もが気軽に利用できるスポーツ施設の整備・充実が不可欠
- 国体の活性化と大会運営に係る開催地の財政負担軽減のため、大会への民間活力の導入を促進することが重要

(本県の取組状況と課題)

公立スポーツ施設の整備によるスポーツ環境の充実

- 主会場(開・閉会式場および陸上競技会場)として(仮称)彦根総合運動公園を整備。
- 老朽化が進む県立体育館(大津市)をPFI方式により移転整備。
- 琵琶湖漕艇場をはじめとする他のスポーツ施設についても、計画的に改修・修繕。
- 市町においてもスポーツ施設の新設、建替、改修・修繕に着手・検討。
- 平成30年度から中央競技団体による正規視察を順次受け入れ。

(施設整備スケジュール)

主な施設整備	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
(仮称)彦根総合運動公園整備	→				
新県立体育館整備	→				
琵琶湖漕艇場改築	→				
野村公園体育館建替(草津市)	→				
(仮)北部地域総合体育館増改築(長浜市)	→				
能登川スポーツセンター建替(東近江市)	→				
彦根市民体育センター建替(彦根市)	→				
プール新設(草津市)	→				

国体・全国障害者スポーツ大会開催準備の推進

- 38の正式競技・特別競技のうち、約9割の競技会場を内定(H30.5)
- 大会準備・運営および大会終了後のレガシー創出の指針となる「開催基本構想」を検討。
- 平成31年の決定に向けて愛称・スローガンの募集・選定を実施。
- 滋賀オリジナルの取組として、小学生から大学生までの子供・若者で構成するチームが開催準備や県のスポーツ振興に関する課題等について調査研究する「ジュニア・ユース事業」を実施。
- ボランティア文化の醸成と定着を目指すスポーツボランティア支援事業を拡充。



ジュニア・ユース事業 (PR動画制作)



イベントでの大会PR活動



スポーツボランティアの活動の様子